

# 平成 1 0 年度試験研究成果

区分	普及	題名	スタ・チス・シヌア - タ栄養系品種の作型組合せ法			
[要約]スタ・チス・シヌア - タの栄養系品種は二度切り作型に挿し芽苗利用作型を組み合わせること ことで、長期出荷が可能となり収益性が向上し、苗コストを軽減できる。 挿し芽苗利用作型は秋出し作型となるが冷房育苗は不用である。						
キ - ワ - ド	スタ・チス・シヌア - タ	栄養系品種	作型	園芸畑作部 花き研究室		

## 1. 背景とねらい

本県のシヌア - タの栽培は平成元年に販売額で1億円を突破し、平成2年には最高の実績となった。その後、産地間競争の中で低単価となり面積が減少してきたが、新たな振興方策が望まれている。

他県主産地が栄養系中心の品種構成となる中で栄養系のオリジナル品種の開発により低コストな苗供給体制の確立が必要である。そのため平成7年度からシヌア - タの栄養系品種開発に取り組んできたが有望品種が育成されてきており、育成品種を低コストに栽培し、収益性を高める作型開発が求められている。

## 2. 技術の内容

1) 栄養系品種の二度切り作型によりシヌア - タの長期出荷が可能となり苗コストが軽減される。加えて挿し芽苗利用作型によりさらに収益性が向上し、冷房育苗なしで秋出し作型が導入できる。

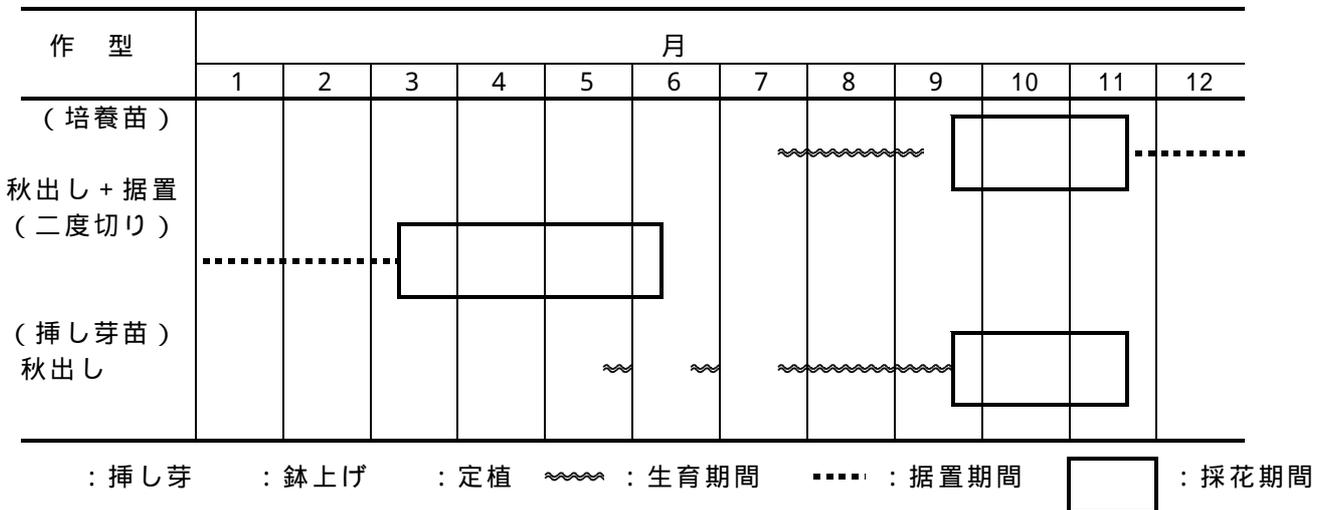
(1) 二度切り作型は培養苗利用の秋出し作型の採花終了後、ハウス内で越冬させハウス内の温度管理によって採花時期が異なるが3～6月に再度採花を行う。(表1～3)

(2) 挿し芽苗利用作型は二度切りの一部の株を増殖し、7月上旬定植の秋出し作型の苗として利用できる。その場合、抽だいの継続している採花株由来の挿し芽苗は抽だいが継続するため、冷房育苗は不用である。(表4) 培養苗利用の冷房育苗期間は50日間とする。(表5)

(3) 作型の耕種概要

苗の種類	作型名	定植時期	冷房育苗の有無	採花時期	備考
培養苗	秋出し + 据置 (二度切り)	7月上旬	有	9月中～11月 3月～6月	
挿し芽苗	秋出し	7月上旬	無	9月中～11月	挿し芽5月中旬

## (4) 作型図



## 3. 普及(指導)上の留意事項

(1) 越冬させる場合、ハウス内の温度管理を8～10℃で管理すると3月上旬頃から採花が始まる。少なくとも保温により0℃以上を保つが被覆資材は結露の少ない資材利用とする。

(2) 挿し芽の方法は別成果を参考に実施するが、NS3、NS12、NS14は発根しやすい品種である。発根後寒冷紗被覆の露地で管理する。

## 4. 技術の適応地帯

高冷地を除く県下全域

## 5. 当該事項に係わる試験研究課題

地帯別気象特性を生かした花き生産の長期化技術

## 6. 参考文献・資料

スタ・チス・シヌア - タの挿し芽苗による促成栽培      岡山大学農学部学術報告  
 メリクロン苗の低温処理      宮崎県総合農試花き部

7. 試験成績の概要

表1 培養苗利用抑制作型の採花期と採花本数（H9年）

系統	定植時期	採花始め	採花終わり	株 当 り 採 花 本 数 (本)				計
				2 L	L	M	S	
NS1	H9・6月6日	8月1日	11月14日	0.9	0.5	4.7	10.0	16.1
NS3	"	"	"	0.0	1.1	4.4	9.0	14.5
NS12	H9・7月9日	9月4日	"	0.0	1.5	3.7	3.7	8.9

注) 無加温ハウス栽培

表2 培養苗利用抑制作型の採花期と収量（H10年）

系統	採花始め	採花終わり	株 当 り 採 花 本 数 (本)				計
			2 L	L	M	S	
NS1	9月14日	11月28日	6.2	2.2	0.4	0.5	9.3
NS12	9月14日	"	0.5	2.5	5.7	4.6	13.3
NS14	9月14日	"	0.3	0.8	4.2	7.7	13.0
MSR	9月14日	"	1.2	2.0	1.8	3.6	8.6

注) 定植時期：7月16日（冷房育苗期間50日苗）、無加温ハウス栽培

表3 抑制後の二度切り作型の採花期と採花本数（H9年抑制栽培後の据置作型）

系統	採花始め	採花終わり	株 当 り 採 花 本 数 (本)				計
			2 L	L	M	S	
NS1	3月25日	6月16日	9.8	6.8	7.1	4.0	27.7
NS3	3月10日	"	13.3	10.0	5.5	7.8	36.6
NS12	3月10日	"	5.8	10.7	6.3	2.7	25.5
MSR	3月10日	"	0.3	16.0	16.7	6.8	39.8
MSR(挿し芽)	3月10日	"	2.7	16.3	16.0	9.3	44.3

注) 最低温度：10 管理

表4 挿し芽苗利用抑制作型の採花期と収量（H10年）

系統	育苗	採花始め	採花終わり	株 当 り 採 花 本 数 (本)				計
				2 L	L	M	S	
NS3	自然	9月14日	11月28日	0.1	0.7	3.7	5.9	10.4
	冷房	"	"	0.0	0.8	4.7	4.1	9.6
NS12	自然	"	"	0.1	2.8	7.1	4.6	14.6

注) 挿し芽時期：5月13日 定植時期：7月16日、無加温ハウス栽培  
冷房育苗期間：6月4日～7月15日

表5 培養苗利用抑制作型の冷房育苗期間による採花期と収量（H10年）

系統	冷房育苗 期間	抽だい経過		採花始め	採花終わり	月別株当り採花本数(本)			計 (本)
		8月18日	9月11日			9月	10月	11月	
NS1	40日	48	86	9月14日	11月28日	0.7	5.6	2.1	8.4
	50日	100	100	"	"	0.4	7.5	1.4	9.3
	60日	91	100	"	"	0.8	6.0	3.2	10.0
NS7	40日	100	100	10月6日	"	0.0	5.1	2.6	7.7
	50日	90	100	9月14日	"	0.2	6.9	2.0	9.1
	60日	100	100	10月6日	"	0.0	3.1	2.3	5.4

注) 定植時期：7月16日、無加温ハウス栽培

NS7：これまで特性検定した中で低温量が少なくて抽だいする系統